

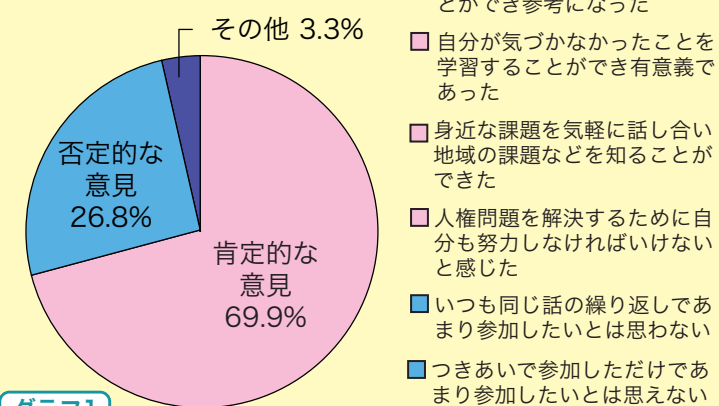
# 人権尊重のまちづくり

## 人権意識の向上にむけて

少子高齢化など社会環境の変化や住民ニーズの多様化が進む中で、住民同士のつながりが希薄になっています。地域の一人ひとりが大切にされ、人権を尊重し合いながら暮らしていく「人権文化が根付いた地域社会」の実現に向けて、自治会（町内会）単位で取り組まれる住民学習会の意義はさらに重要です。

### 「住民学習会」は効果がある

住民学習会に参加した感想



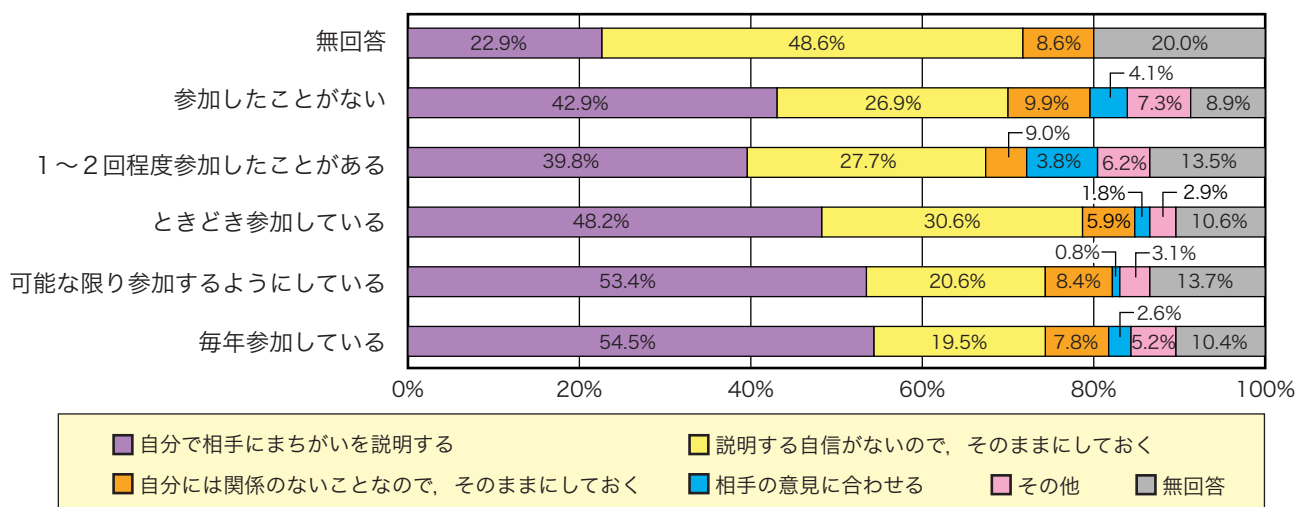
- いろいろな人の考えを聴くことができ参考になった
- 自分が気づかなかったことを学習することができ有意義であった
- 身近な課題を気軽に話し合い地域の課題などを知ることができた
- 人権問題を解決するために自分も努力しなければいけないと感じた
- いつも同じ話の繰り返しであり参加したいとは思わない
- つきあいで参加しただけであり参加したいとは思えない

福山市では、今後の人権施策や協働のまちづくりを推進する基礎資料として活用するため、「人権尊重のまちづくりに関する市民意識調査」及び「同和地区実態把握」を実施しました。

- 調査時期 2010年（平成22年）12月1日～2011年（平成23年）1月31日
- 把握時期 2011年（平成23年）3月～6月

住民学習会の参加状況と差別言動への対応

グラフ2

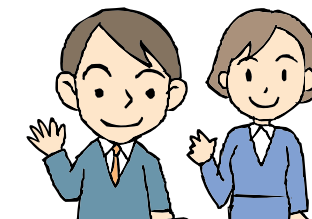


参加した人の感想は、「いろいろな人の考えを聴くことができ参考になった」と回答した割合が21%と最も高く、「自分が気づかなかったことを学習することができ、有意義であった」、「身近な課題を気軽に話し合い、地域の課題などを知ることができた」などの肯定的な意見を合わせると約70%となっています。【グラフ1 参照】

また、「住民学習会」に参加している回数の多い人ほど、職場や地域、家庭の中で差別的な言動があったときには、「自分で相手にまちがいを説明する」という前向きな意見の割合が高くなっています。【グラフ2 参照】

この結果からも「住民学習会」に参加することにより、身の回りの課題に気づくなど人権意識を高めることにつながっています。

## 人権問題に対する現状について

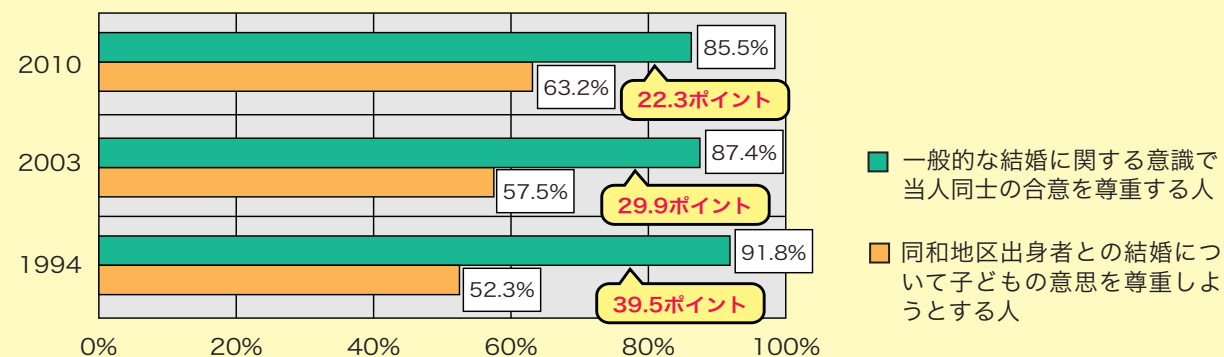


「人権尊重のまちづくりに関する市民意識調査」及び「同和地区実態把握」の結果から、人権問題に対する意識の変化をみることができます。

### 同和地区出身者との結婚に対する意識の較差は縮小しています

一般的な結婚に対する意識と同和地区出身者との結婚に対する意識（既婚者）

グラフ3



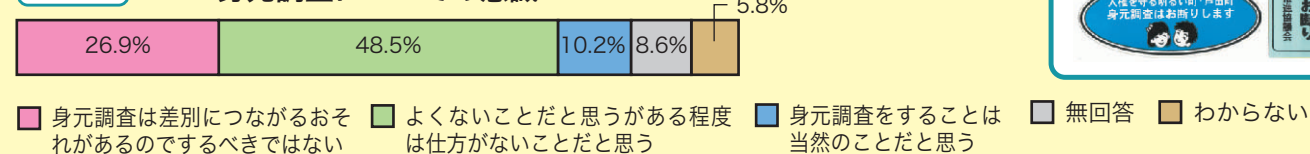
一般的な結婚に関して「本人同士の合意を尊重する」という意識と、相手が同和地区出身者の場合に「結婚を認める」「子どもの意思を尊重する」という意識の較差が、2003年調査と比べて7.6ポイント減少しており、着実に差別意識は解消されつつあります。【グラフ3 参照】

しかしながら、同和地区実態把握で実施した「子どもの結婚」に関する聞き取りでは、最終的に結婚にいたった場合でも「結婚式に出席しない」「（結婚後）同和地区外に居住する」「親戚付き合いをしない」などの結婚差別の実態が少なからず判明し、統計数字には表れにくい部落差別の現実が明らかになっています。

このことから、差別は当事者だけの問題でなく誰もが自分自身の問題として、解決に努力していくことが大切です。

### いまだに「身元調査」を肯定している人が半数を超えています

グラフ4 身元調査についての意識



結婚や就職時の身元調査について「当然のことだと思う」（10.2%）「よくないことだと思うがある程度は仕方がないことだと思う」（48.5%）という肯定する意見が約6割あります。【グラフ4 参照】

生まれた場所や住んでいるところで、人の価値が判断されない社会をつくるために、身元調査を「しない・させない・ゆるさない」取り組みを進めていきましょう。福山市では、1985年から「身元調査お断りステッカー」「人権標語の立看板・三角柱」による啓発活動を実施しています。

差別の存在に気づき、自分自身がどう行動するのが、差別の解消に向けて取り組むうえで大切なことです。

